

生誕 160 年記念 グランマ・モーゼス展

あべのハルカス美術館 21.04.17~06.27 名古屋市美術館 07.10~09.05
静岡市美術館 09.14~11.07 世田谷美術館 11.20~22.02.27 東広島巡回

アメリカ東部の無名の農婦であった「グランマ・モーゼス」(1860~1961)は、高齢の70代になってから身近なニューイングランド地方の自然、田園風景、日々の農村の暮らしを素朴な筆致で「1600点」以上も描いた画家で、暖かなまなざしがあるのが特徴である。彼女は、単純で伝統的な画風で制作をし、80歳時に初個展を開催、101歳で亡くなるまで国民的画家として愛され続け、誰もが知る国民的画家で、“モーゼスおばさん”という愛称で多くの人に親しまれた。

本展は、画伯の油彩画、愛用品や関連資料など、日本初公開を含み「約130点」を紹介し、この世界の美しさやささやかな喜びを描き続けた魅力に迫る。



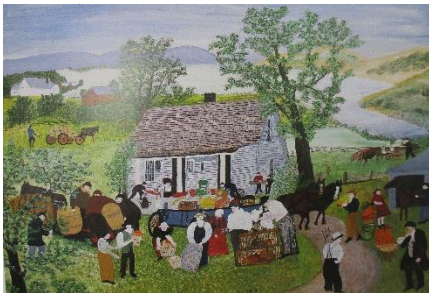
《フージュック・フォールズ 冬》

冬の雪で覆われた「フージュック・フォールズ」の町を描いた作品は、汽車や木の家や町の人々が、子供のようにも玩具のようにも見えてとても単純である。しかし、画伯はどうすれば空間感覚と情感を絵に与えることができるかを知っていて、川の曲線、谷に食い込む見渡す限りの小高い山々や遠くなるほど薄らいでいく淡い澄んだ色彩は、巧みに計算されて情景を完全に仕上げている。



《アップル・バター作り》1947年 油彩/板

画伯の代表的な作品で、素朴派には珍しくパノラマ風の広大な風景で、その中で働き憩う人々が好んで描かれている。画風は、柔らかい色彩と少々ぎこちないと思われるデッサンの人物や、動物、樹木などに漂うほのぼのとした暖かさは、彼女の生活と人柄に直結するものであろう。



《農場の引越し》1951年 油彩/板



《村の結婚式》1951年 油彩/合板